

(1) 発表資料の状況設定

学部長会でのコンセプトのレビューと原稿の提出の依頼を行なう状況設定とする。

図書館員の間に関りポジトリの目的・意義の認識に個人差があるため、前段階として関りポジトリの概要や本学の現状、取り組むべき課題についてのプレゼン(約 20 分間)を実施した。その上で同じメンバーに対して、研修発表資料のプレゼンを実施した。

(2) 発表内容抄録と研修当日の講師からの助言、及び研修発表との改訂部分

助言：コンテンツの提出について、明日にでも提出可能であるが、受付けてもらえるのか？という想定質問があった。これに対してはテスト稼動を経て本稼動であるが、データを頂ける分には頂く。但しアーカイブの公開については時間を頂きたいと回答した。

研修発表との改訂部分

ドキュメントの改訂は行っていない。但し、前段階のプレゼンを実施したため、冗長となる部分については口頭説明を割愛した部分がある。

(3) リハプレゼンの概要（日時、場所、発表者、発表対象、参加人数 etc.）

第 1 回：9 月 11 日 13:15-13:55 発表者：三上・鈴木、発表対象：図書館員 10 名

第 2 回：9 月 29 日 10:00-11:40 発表者：三上・鈴木、発表対象：図書館員 7 名

(4) リハプレゼンへの反響（アンケートをとった場合の結果、感想の声等）

① 感想

- ・ これからの計画や、体制、業務の内容について、ピンポイントでまとめてあり、本学の構想がよく理解できました。
- ・ 紀要のほかに、学会誌や一般誌も視野に入れていくというところがありましたが、これをまとめて説明すると、初めて聞く先生方には、理解が難しくなるように思いました。NII の構想と、明学の構想のちがいでいいについて、うちはここまでやりましょう、のようなイメージの説明があるとよいと思いました。
- ・ 関りポジトリの説明会に出席させていただいて、とうとう現実問題として向き合わざる得ない状況になってきたなと感じた。
- ・ 全体としてはわかりやすい説明であったと思いますが、こちらの不勉強のせいで耳慣れない言葉に戸惑いました。考えているうちの話が進んでしまいました。
- ・ フリーソフトで自館運用することはやはり大変な気がします。パッケージということになるのでしょうか。
- ・ インターネット上で、フルテキストを見ることができるのは利用者にとってはメリットが大きいことだと思いますので、やる価値は充分にあると思います。

②改善の指摘

- ・ 紀要のほかに、学会誌や一般誌も視野に入れていくというところがありましたが、これをまとめて説明すると、初めて聞く先生方には、理解が難しくなるように思いました。NII の構想と、明学の構想のちがいで、うちはここまでやりましょう、のようなイメージの説明があるとよいと思いました。
- ・ 実際に教員との調整が必要なのは、著作権処理のところだと思います。著作権を許諾すると、後世、どうなるかを説明してもらおうと、先生方が納得されるのではないかと思います。
- ・ プレゼンで概要は OK だが、教員が見て「やらなければ」と思うような説得力がもっとほしい
- ・ 機関リポジトリで論文等を公開するにより、著作者にどれくらいのメリットがあるのか、また、デメリットがあるのか説明して理解を得なければならないでしょう。
- ・ 導入後の体制と運営システムは再度検討したほうが良い。
- ・ 著作権処理が提供者に負担にならないようにしなければならない。著作権に関しては、あらゆる状況に回答できるようにシミュレーションしなければならない。
- ・ 大学内での意味付けを明確にする必要がある。

③質問

- ・ 外部の雑誌や図書に掲載した論文をリポジトリに乗せることによって、その雑誌 や図書が売れなくなってかえって教員にとって不利益にならないか。(他大学で、図書の掲載論文もリポジトリに載せているところがあり、気になった)
- ・ データの蓄積、永久的な保存を目的としていると思うのですが、もし、著作権をもどしてほしいと言ってきたら、どうなるのでしょうか。データは削除になるのでしょうか。

(5) その他 (備考、今後の予定と希望 etc.)

とし、受講者名・受講者番号・所属機関名を全員分明記する。

今後の予定：

図書館内の準備委員会を立ち上げた。

プロジェクト計画をもとに学内の来年度事業計画の上申を行なった。上申には予算計画も含む。

来年度はシステム構築とテスト稼働を見込む。

受講者名：明治学院大学 三上耕一(受講者番号:34) 鈴木直子(同:32) 長崎晃一(同:33)